

## トマト・ミニトマト圃場でトマトキバガの食害が発生しています。

## 育苗中からよく観察し、食害を見つけたら直ちに防除を！

### 現在の状況

- 1 本年4月12日、県中部に設置したフェロモントラップにトマトキバガの誘殺が確認された。
- 2 県内の複数のトマト及びミニトマト栽培ハウスで、育苗中の苗や本圃で本種の食害と疑われる事例が発生している（同定中の事例も含む）。

### 防除対策

- 1 育苗中から圃場をよく観察し、発生の確認に努める。
  - (1) 幼虫は0.5～8mm程度と微小で、葉肉内を袋状に食害し潜葉痕を生ずる（図1）。
  - (2) 幼虫は特に若い葉や生長点を好んで食害する傾向があり、生長点を食害されるとひどい時には芯が止まり枯れあがる場合がある（図2）。
  - (3) ハモグリバエ類による潜葉痕と類似するが、ハモグリバエ類は線状に痕を残すのに対し、トマトキバガは面的に食害する（図3）。また、トマトキバガの潜葉痕は光にかざすと裏からも透けて見えることが特徴である。
  - (4) 果実へは、初め比較的小さな穴を開けて食入する。食害はゼリー室まで到達することもあれば、果実表面を数ミリ程度穿孔し、食害部分が腐敗する場合もある（図4）。
  - (5) トマトキバガの被害と生態の特徴は、「令和5年度病害虫発生予察情報特殊報第1号：トマトキバガの発生について」を参照のこと。
- 2 トマトキバガの発生が疑われたら直ちに最寄りの農業改良普及センターへ連絡し、発生種の確認を行う。
- 3 育苗期間中に食害が確認された場合、被害葉の摘み取りを行うとともに粒剤又は灌注剤処理を行い、まん延防止対策を行う。
- 4 定植後は以下の対策を組み合わせることで、効果的な防除が期待できる。
  - (1) トマトキバガに適用のある農薬を散布する（表1、2）。トマトキバガは世代のサイクルが早く、海外では薬剤抵抗性の発達が報告されていることから、同じ系統の薬剤を連続した世代で連用しないように薬剤を選択する。なお、薬剤散布に当たっては最新の農薬登録情報を必ず確認すること。
  - (2) 摘葉や整枝を適切に行い、幼虫や卵の耕種的防除を行う。
  - (3) ハウス入口や開口部にネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。
  - (4) 残さ及び食害果は土中に深く埋設するか、ビニル袋等に十分期間密閉したのち、適切に廃棄する。



図1 葉の潜葉痕 (左：初期、右：進行)



図2 生長点付近の食害状況と幼虫



図3 ハモグリバエ類による潜葉痕 (上) と  
トマトキバガによる潜葉痕 (下)



図4 トマト果実の食害痕 (上：果実表面の食害痕、  
下：食害果外観 (左) と内部 (右))

表1 トマトキバガに登録のある薬剤（トマト）

商品名	農薬の種類	IRACコード	使用方法名称	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	成分の総使用回数
ディアナSC	スピネトラム水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	2回以内
ラディアントSC		5	散布	収穫前日まで		2500～5000倍	
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6	散布	収穫前日まで	5回以内	2000倍	5回以内
アグリメック	アバメクチン乳剤	6	散布	収穫前日まで	3回以内	500～1000倍	3回以内
エスマルクDF	B T水和剤	11A	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	1000倍	-
コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	3回以内
トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
プリロツ粒剤	シアントラニプロール粒剤	28	株元散布	育苗期後半～定植時	1回	2g/株	※1
プリロツ粒剤オメガ		28	株元散布	育苗期後半～定植時		2g/株	
ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28	灌注	育苗期後半～定植当日	3回以内	400株あたり25mL	
ベネビアOD		28	散布	収穫前日まで		2000倍	
ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	28	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	※2
グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

表2 トマトキバガに登録のある薬剤（ミニトマト）

商品名	農薬の種類	IRACコード	使用方法名称	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	成分の総使用回数
ディアナSC	スピネトラム水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	2回以内
ラディアントSC		5	散布	収穫前日まで		2500～5000倍	
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6	散布	収穫前日まで	5回以内	2000倍	5回以内
エスマルクDF	B T水和剤	11A	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	1000倍	-
コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	3回以内
アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
プリロツ粒剤	シアントラニプロール粒剤	28	株元散布	育苗期後半～定植時	1回	2g/株	※1
プリロツ粒剤オメガ		28	株元散布	育苗期後半～定植時		2g/株	
ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28	灌注	育苗期後半～定植当日	3回以内	400株あたり25mL	
ベネビアOD		28	散布	収穫前日まで		2000倍	
ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	28	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	※2
グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

**【利用上の注意】**

本資料は、令和6年4月10日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

**【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】** TEL:0197(68)4427 FAX:0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/2003279/index.html>

